

キャラクター名 ヴランベルセン三世+モア	プレイヤー名
-------------------------	--------

種族	ヴァルキリー	種族特徴	戦乙女の光羽、戦乙女の祝福		
生まれ	乗り手	性別	♂(本体♀)	年齢	3歳馬(本体14)
冒険者Lv	11	経歴	異種族を怖がっている (いた)		
経験点	1400		国王に会った事がある 今でも使う決めセリフを持っている (いた)		

技	9	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	2	2		13	2				
体	8	敏捷度	4	13		26	4	エンハンサー	10		
		筋力	2	6		16	2	アルケミスト	8		
心	9	生命力	10	10		28	4	ライダー	11		
		知力	6	3		18	3	ウォーリーダー	7		
		精神力	12	12		33	5				

戦闘特技				言語			会話	読文
治癒適性	2122	p		交易共通語		○	○	
不屈	2123	p		魔動機文明語		○	○	
ポーションマスター	2123	p						
かばう	1B36	p						
鉄壁	1B30	p						
マリオネット	1B38	p						
マルチガード	1B32	p						
ガーディアン	1B29	p						
スローイング	1B30	p						
		p						
		p						

練技/呪歌/騎芸/賦術		
虫	騎獣強化	ポイズン
抵	探索指令	イニブ
睡	騎獣の献身	えんペ
血	HP強化	ヒルスプ
馬	特殊能力開放	アンロックニードル
脳	HP超強化	鉄壁の防陣1
魔	チャージ	鉄壁の防陣2
再	人馬一体	怒涛の攻陣1
翼	威嚇	怒涛の攻陣2
種	騎獣超強化	鉄壁の防陣3
トロール	特殊能力完全開放	鉄壁の防陣4反攻
モラル	ヴォパ	鉄壁の防陣4無敵
レジ	パーク	
ビビット	パラミス	

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	必要	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	ソフトレザー		7		3
盾	ラウンドシールド		8		1
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	合計値				0 4

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
パンチ	1H	0		2d+ 0	12	0	0										
ジャベリン	1H投	5	-1	2d+ -1	10	0	10										
戦旗槍:防				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3	26	78	2d+	0	4	61					
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP							
2d+	14/×	2d+	11	33							

装備品	説明	装備品	説明
頭			
耳			
顔	シンパシーピアス		
首	軍師きしょう		
背中			
右手			
腰	アルケミーキット		
足			
その他			

その他メモ	自動失敗
一般技能:馬コック5 馬執事5	チェック
ヴランベルセン三世はスリープ家で管理されているサラブレッドだ。彼が覚えているのは1歳の時、まだ10歳程度の少女が自分の背中に乗ったのだ。	□□□□⑤
まだ足腰に自身もないヴランベルセン三世は弱気になっていたが、彼女に乗った瞬間に体が軽くなったのを覚えている。	□□□□⑩
	□□□□⑮
もしかしたら彼女に乗られるために俺は生まれてきたのかもかもしれない……そう強く思うほどに。俺が2歳になった時、めったに顔を見せてくれない彼女が少し綺麗な服を着てから俺の背中に馬具をつけて、歩くようにお願いしてきた。その通りに進めばそこには巨大な神殿。城と言っても問題位の大ささの神殿に通される。	□□□□⑳
彼女は神殿前で降りて、何処かへ行ってしまった。しかし、帰ってきた彼女が疲れ切っていたのは覚えている。	□□□□㉑
俺は彼女を背に乗せて彼女の家へと帰る。途中で彼女は寝てしまったので、そっと彼女の匂いのする布団の上に彼女を降ろして掛け布団もそ	□□□□㉒
	□□□□㉓

